

支援いただいた皆様への御礼と近況報告

拝啓

風薫るさわやかな季節となりましたが、それを愛でる心のゆとりもなく、いつの間にか、庭の木々も緑濃くなっていたのに、やっと気がついた今日この頃でございます。皆様には、ご健勝のことと拝察申し上げます。

この度の、東日本大震災及び原発事故災害に際しましては、各方面の方々から、様々な物心両面にわたるご支援、そして、心あたたまる励ましのことをいただき、とても心強く、ありがたく、感謝の思いでいっぱいでございます。

改めて、心より深く御礼申し上げます。

断腸の思いで避難した、2日間の空白の後、3月21日夕方より、仕事に戻りましたが、正直のところ、いまだに心は、3月11日のままで、止っております。

この様な中で、毎日、自分を頼ってきてくれる患者さんと共に、命があれば、そして健康であればと、真摯に現実と向かい合い、少しずつ、前を向き始めております。

この世のものとは思えない、津波の爪痕、目に見えない、放射線という魔物との戦い、家も家族も失い、その弔いも出来ないで苦しむ人々、その闇の心の中に、深入りせずに、その一助を何とか果たそうと、日々励んできました。

一度も避難しなかった職員が、4名いました。そして、徐々に復帰し今は、ナース5名、事務4名、検査技師1名で何とかやっております。今だ避難している者、転職した者などで、完全にもとの体制にはなっておりませんが、スタッフ一同、力を合わせ一丸となって、患者さんに対応しております。

当地での原発との関わりは、これから先どうなっていくのか、全く見えておりません。屋内退避から、緊急時避難区域に変更されました。

再開した診療所が増えてきた中で、震災・原発事故前には、5カ所あった分娩できる医療機関は、私の所を除いて、全部再開しておりません。それは、事故後、2カ月になろうとしているのに、分娩は、南相馬市全体で1例しかなく、再開しても成り立たないからなのです。

先週から、郵便も普通に配達されるようになり、殆どの銀行も再開し、スーパーも始まりました。嬉しい事です。しかし、空しくも感じます。それは、これから、何年かけても、絶対に旧に戻らないものが、たくさんあるからです。贅沢だろうか？

今回、直接或いは間接的に、色々な出会いがありました。見ず知らずの方が支援物資を届けて下さったり、思いがけない方が訪ねてきてくれたり、励まし

の手紙を頂いたり、新たな人間関係が出来、私にとって大きな心の財産を得たと感激しております。

明日も見えないこの地域で、一体、これから何が出来るのか分かりませんが、じっくり考えながら、臨機応変、日々是決戦ととらえ、医師として地域と共に過ごす所存であります。

今後とも、気にかけて頂ければ、ありがたく、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

遅ればせながら、心よりのお礼と、近況報告の便りをさせていただきます。

敬具

平成23年5月6日

〒975-0006

福島県南相馬市原町区橋本町1丁目3-2

医療法人誠愛会

原町中央産婦人科医院 院長

高橋 亨 平

TEL 0244-24-3355